

jpa2022.csl Sample (Split by Language)

このファイルは「jpa2022.csl」のデモ用のファイルです。

英語の文献を文中で引用すると Christie (2011) のように表示されます。

文末で引用するとこのように表示されます (Christie, 2011)。

日本語文献と英語文献で異なる表記で引用されます。例えば、著者が 2 名の場合の英語文献は Ishii & Eisen (2016) のように表記され、日本語文献だと 林・山田 (2015) のように表記されます。3 名以上の場合は、英語文献だと Rosen et al. (2015) のようになります。

翻訳書を引用すると「原著者（刊行年翻訳者〔あるいは監訳者〕訳〔あるいは監訳〕翻訳刊行年）」と表記されます。例えば、Lopez-Corvo (2009 井上監訳 2014) のような形です。

ちなみにデモとは関係ありませんが、翻訳書に監訳者と翻訳者がいる場合は次のどの表記が正解なのでしょうか？（手びきを見てもよく分からなかつたのでとりあえず「jpa2022.csl」では 2 番目を採用しています）

- 原著者（刊行年 翻訳者訳 翻訳刊行年）※翻訳者を優先
- 原著者（刊行年 監訳者監訳 翻訳刊行年）※監訳者を優先
- 原著者（刊行年 監訳者監訳翻訳者訳 翻訳刊行年）※どちらも表記

引用文献 (英語 -> 日本語)

Christie, D. J. (2011). *The Encyclopedia of Peace Psychology*. Wiley.

Ishii, K., & Eisen, C. (2016). Measuring and understanding emotions in east asia. In H. L. Meiselman (Ed.), *Emotion measurement* (pp. 629–644). Woodhead Publishing.

Lopez-Corvo, R. E. (2009). *The Woman Within: A Psychoanalytic Essay on Femininity*. Routledge.
(ロペス-コルヴォ, R. E. 井上 果子 (監訳) 飯野 晴子・赤木里奈・山田一子 (訳) (2014). 内なる女性——女性性に関する精神分析的小論—— 星和書店)

Rosen, L. D., Cheever, N., & Carrier, L. M. (2015). *The Wiley Blackwell Handbook of Psychology, Technology, and Society*. Wiley.

長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中直行 (2020). はじめて出会う心理学 第3版 有斐閣

林 創・山田剛史 (2015). 学術論文の読みを通したリサーチリテラシー育成の試み 日本教育心理学会第57回総会発表論文集, 611.